

## おわりに

学習指導要領の改訂に伴い、移行措置に関する告示等が本年6月に公示されたところです。平成23年度からの完全実施に向け、全国の小学校では様々な準備に追われていることと思います。

さて、本校の教育実践研究は「知識創造の力を育む授業」を研究主題に掲げて3年目となります。昨年度は“「かかわり」を活性化する”を副題として取り組み、確かな成果を得ることができました。

そこで3年次の今年は、これまでの「かかわり」という見えやすいところから、児童の内面という見えにくい領域へ、少し踏み込んで研究・実践することにしました。日々の授業において「知識創造の過程をふり返り自覚化することは個々の児童の知識創造の力を育むであろう」という仮説をもとに、副題を“プロセスの自覚を通して”としました。

研究を進めるに当たり、教科の特性及び児童の発達段階が問題になりました。また、プロセスの自覚という目に見えにくい領域を扱うため、可視化していくことも難しい課題となりました。当然ながら、研究を進めるうちに職員間で意識のズレが生じる場面が出てきました。長時間の話し合いで思考停止状態に陥ることもありました。それでも個々の教師が思いを表出し、考えを可視化しながら、全職員の共通理解できるレベルを探りました。とにかく動き出してみよう、授業実践を通して共通理解を図っていこうという思いが強くなりました。知らず知らず、教師自身の知識創造の力を育む校内研究会になっていた気がします。

学習指導要領の改訂による本校の当面の課題として、改訂の趣旨に沿った教育課程編成の取り組み、そして今後の研究方向の吟味などがあります。研究協議の折には、皆様から多くのご示唆をいただけることを期待しております。

皆様方の忌憚のないご意見、ご指導をよろしくお願いいたします。

金沢大学附属小学校

副校長 山下 尚

